

地域課題の解決に向けた取組

日高地域の林業活性化に向けた取組

日高北部森林管理署

はじめに

日高北部森林管理署は、日高振興局管内の日高町と平取町の2町を管轄しています。

管内の民有林は4万1千ヘクタールあり、その内1万4千ヘクタールが人工林となっています。

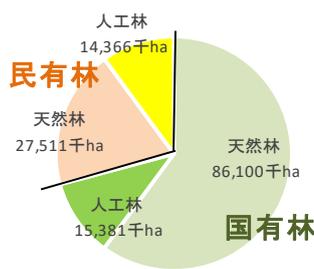
人工林では、急峻な地形が多いことや、風倒被害への懸念などから、切り捨て間伐を主体に実施されてきていました。

地域の課題

近年、道内では地球温暖化対策に資する木質バイオマス資源の活用が高まっています。

平取町でも、木質バイオマス産業都市構想が打ち出され、未木枝条や端材などの「林地未利用材」の需要が

日高町・平取町の森林面積



見込まれるようになっていきます。

このようなことから、これまでの切り捨て間伐から利用間伐の導入に向けた検討が必要となり、また、作業コストを踏まえ列状間伐を取り入れていくことが地域の課題となっています。

列状間伐の推進

当署では、平成29年から日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合と、列状間伐の普及などを目的とした連携を進めています。

具体的には、間伐予定箇所について「森林の健康診断書」を作成し、列状間伐を森林所有者に提案してきました。

この診断書は、林分状況や将来の施業方針をまとめ



3D画像と森林の健康診断書

たものです。作成に当たっては、林相や森林蓄積を把握する現地調査と併せて、ドローンによる現況把握を行っています。

これらのデータを基に、わかりやすい資料を作成し戸別訪問し、列状間伐の説明を含めた施業提案を行ってきました。



列状間伐見学会

また、森林所有者が抱っている列状間伐への懸念を少しでも払拭できるように、日高町役場も招いて列状間伐見学会を国有林で行いました。

これらの取組から、森林所有者5名の賛同が得られ、令和4年までの継続した搬出(列状)間伐の計画立案に至ったところです。

また、林地未利用材の活用については、国有林からの出材情報を共有することにより、民有林から出る林

地未利用材と一体的な搬出に繋げることができたところです。

今後の取組

列状間伐の普及は、まだ道半ばです。

日高振興局森林室平取事務所、沙流川森林組合と連携した「森林の健康診断書」の作成をはじめとした取組を継続するとともに、再造林や下刈コスト削減などの地域の課題解決に向けて粘り強く取り組んでいきたいと思えます。



民有林における列状間伐箇所と林地未利用材